







※農業景況天気図

日本政策金融公庫は「農業景況調査」（令和4年1月調査）の結果発表によれば、今年（令和4年）の北海道酪農の景況は昨年実績の「雨」から「雷雨」へと大幅に悪化する見通しという報告がありました。

生乳需給の緩和を受け生産抑制、配合飼料価格や資材の高騰で生産コストが増加しているため、道内酪農はここ数年令がないほど経営環境の厳しさが増すとのことです。

業種	令和2年 実績	令和3年 実績	令和4年 見通し
酪農(北海道)	 ▲ 19.3	 ▲ 32.8	 ▲ 54.7
酪農(都府県)	 ▲ 16.4	 ▲ 39.5	 ▲ 47.1

その背景には

- ① コロナ禍を要因とした生乳需給の大幅緩和に出口が見えない
- ② 需給改善に向け生産抑制や費用負担（脱脂粉乳過剰在庫解消対策への費用抛出）
- ③ 配合飼料など生産資材価格が軒並み高騰し生産コストが増加している

などがあるとみられるそうです。

（日本政策金融公庫のHPより抜粋）

ただ、これらの見通しはあくまでも今まで同様に乳生産を中心の考えで計算されていますので、受精卵移植による子宮の生産性という考え方は反映されていないと思います。

M情報で何度か紹介してきましたが、ホルスタイン種雌判別精液を効率的に利用することによって計画的に後継牛を生産し、経産牛には黒毛和牛や福之姫 F1 受精卵の利用で市場でより高く販売できる子牛の生産が可能になります。

例えば 10 万円高く販売することができれば、3,000kg 乳生産が伸びたことと同じ（100 円/kg × 3,000kg × 35% = 105,000 円（経費 65%として））になります。ホル雄やホル雌と比べると黒毛和牛の初生価格は 20 万円～30 万円高く取引されます。（但し生きて産ませることができ市場へ出荷できた場合に限りですが…）

要は乳代以外にも収入の方法は他にもあるということです。他に手段が何も無く手も足も出ないという状況では無いということに気づいて前向きに考えて欲しいという意味です。

今から始めても妊娠期間+出荷までの日数として結果がでるのは 1 年後にはなりますが、何もしないよりはよっぽど良いと思います。

ここで一番問題になるのは初年度の受精卵の購入・移植費用になりますが、弊社と取引があります日本政策金融公庫帯広支店の担当者はこの理屈を瞬時に理解してくださって、初年度の受精卵の購入および移植費用についての融資は十分に可能だ言っています。

どうでしょうか？

.....

・念願の ProCross の受精卵産子を誕生させることができました。最初に ProCross という三元交配を知ってから 5 年という時間がかかりましたが、またひとつ夢が叶いました。